

株式会社島津製作所 相談役

服部副会頭



京都経済の未来を語る

第2弾

KBS京都「京bizX」

竹内キャスター



前号からスタートした京bizXコラボインタビュー。今回は、ベンチャー企業育成やライフサイエンス産業の振興、京都経済センターの整備などに尽力されている服部副会頭に、竹内キャスターがお話を伺いました。

知恵をミックスさせ、さらなる成長を

〈竹内〉

服部副会長は製造業代表としてさまざまな活動を進めておられますが、今の京都経済をどのように見ておられますか？

〈服部〉

電子部品・電子機器をはじめとする京都の製造業は、欧米を中心に世界的にビジネス展開しており、おおむね好調を維持しています。また、伝統産業や観光産業も、海外からのインバウンド観光客をはじめとする観光需要の増加で活気づいており、見通しは明るいのではないのでしょうか。

〈竹内〉

さまざまな中小企業を取材していると、これまでのように全体が良い・悪いというより、個々の企業ごとに明暗が分かれるような時代になってきたと感じています。

〈服部〉

それぞれの企業が自社の強みや特徴、すなわち知恵をいかした経営に舵を切りはじめていることの表れだと思います。これからは、成功しているビジネスモデルを参考に、自社の強みとうまくミックスさせて、さらなる成長を実現していく

ことが経営者には求められると思います。これまで展開してきた支援で生まれた知恵ビジネスを、より大きな「知恵産業の森」に集積し、そこから新たな知恵が生まれてくるような「価値創造都市・京都」の実現を目指して、立石会頭を先頭にこれからも取り組んでいきたいと思えます。

京都経済センターをベンチャー育成の拠点に

〈竹内〉

そのためには「ベンチャー企業の育成」が大きなポイントとなってくると思えます。京都は昔からベンチャー企業が育つ土壌が整っていないながら、ここ20〜30年は元気のあるベンチャー企業が少なくなってきたように感じますが、どうお考えですか？

〈服部〉

戦後、日本経済の復興に向けて若い有能な経営者たちがこぞって新しい企業を立ち上げました。いわゆるベンチャー企業の始まりです。そのとき立ち上げられたベンチャー企業が世界的大企業へと



成長してきました。今後、日本が世界的な競争力を維持していくためには、今のうちからしっかりとベンチャー企業の育成に取り組んでおかなければいけないと強く感じています。

数年前にマサチューセッツ工科大学を視察した際、資金調達や知的財産、人材確保などのあらゆる面で支援体制が整っていることを知り、非常に感心しました。大学・企業・投資家などが一体となってベンチャーの育成に取り組んでおり、そのおかげで毎年20社ほどが上場していると聞きました。

京都は大学が集積する学生の街であり、多くの起業家を輩出してきた文化

が息づいています。また、資金的に支援する金融機関やベンチャーキャピタルなども多くあり、ベンチャーの芽生えは感じられますが、それを育てるための「場」が整っていないことが大きな課題です。

2年後に完成する京都経済センターの主な機能に「交流と協働の促進」を掲げていますが、京都経済センターが「場」として中心的な役割を担っていければと考えています。「創造的な知恵の連携拠点」として、将来の京都経済を担う人材・企業を育成する場になるよう、オール京都で知恵を出し合っていきたいと思えます。



ライフサイエンス分野で日本をリードしていきたい

〈竹内〉

服部副会頭は健康医療イノベーション特区の推進にも力を入れておられます。京都・大阪・兵庫が平成26年に国家戦略特区に指定され、健康医療分野のイノベーション拠点となっていますが、これまでの取組みをどのように感じておられますか。

〈服部〉

京阪神の3商工会議所では、関西圏のライフサイエンス産業の一層の振興に向けて、「京阪神三商工会議所ライフサイエンス振興懇話会」を設置しています。各会議所の担当副会頭が集まり、定期的に懇話会を開催することで、各都市の連携を強化し、特区としてどのような提案ができるか議論してきました。その結果、ライフサイエンス分野を中心に色々な新規事業や、先進的な研究分野

において規制緩和が認められ、新しい事業の創出が期待されています。京都では疾患IPSを血液から大量に作り、創薬支援に利用することが特区内で認められたり、国内で未承認の手術支援ロボットを喉頭がんの手術に使用できるなど4つの事業が認定されました。今後

も更なる規制緩和を要望していく予定であり、関西がライフサイエンス分野の研究開発拠点として、日本をリードしていきたいと考えています。

〈竹内〉

国の特区制度をうまく活用できない地方もありますが、健康医療イノベーション特区がこれだけ活性化している背景には、3商工会議所の副会頭が密に連携し、国に対して的確に要望活動を行っているという努力があるのですね。

失敗を通して人間として成長して行ってほしい

〈竹内〉

先日の立石会頭へのインタビュー（本誌2017年5・6月号に掲載）でもお聞きした質問ですが、仕事でも人生でも失敗はつきものですが、服部副会頭は失敗することの意義についてどのようにお考えですか？

〈服部〉

私も非常に多くの失敗を経験してきましたが、新しい挑戦をすれば、ときには失敗するものです。しかし、失敗することで経験が体に染みつき、人間として成長できると考えています。「経験は知識よりも重要だ」とよく言っているのですが、つらい失敗を経験することで、それが次のチャレンジへつながる力になっていくのです。若者にはどんどん新しいことにチャレンジし、失敗を通して人間として成長して行ってほしいと思います。

〈竹内〉

ベンチャー育成に関しても、失敗することへの恐怖を打ち消して、前へ進む精神を教えることが重要ですね。

〈服部〉

日本には社会的に失敗してしまつと再チャレンジできないような雰囲気がありますが、その失敗を糧に次のチャレンジに活かせるようなカルチャーを作っていくことが、若者の起業やベンチャーの育成にとって非常に重要です。そういったことも踏まえて、これからもしっかりと支援していきたいですね。



【京bizX】

毎週金曜日21:00~22:25 KBS京都テレビにて放送中。

※このインタビューの模様は、6月30日の「京bizX」で放送されました。